

岩 手 県

遠野農林振興センター 林務課
上席林業普及指導員 廣田 紀代子

遠野地域におけるフォレスター活動を通じた松くい虫被害対策への地域の合意形成の取組と支援の一事例

1 テーマの趣旨・目的

遠野市が令和3年度に策定した「遠野市松くい虫防除戦略」に基づく、松くい虫被害の総合的な被害対策を実現するため、①松くい虫被害材の利用を促進するための構想の提示、②国、市、関係機関等との合意形成の促進、③被害材利用に向けた地域での総合的取組などの支援をフォレスター活動として行った。

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

遠野市の松くい虫被害は、平成17年に初めて確認され、被害量は平成27年の1,200 m³をピークに令和4年度は484 m³と減少傾向にあるものの、被害区域は市の西部地域から東部地域へ拡大している。

このため、遠野市では、被害発生地域の偏りが大きいことに鑑み、令和4年2月に「遠野市松くい虫防除戦略」を策定し、被害状況に応じた防除対策に取り組んでいる。



被害まん延地域の状況

R4 松くい虫被害発生状況

被害先端地域の状況

(2) 取組内容

① 地域の行政機関への働きかけ

被害先端地域では、監視の強化や徹底駆除による被害の根絶を目指し、民国の連携による防除体制の構築に向けて合意形成を促進した。

被害まん延地域では、県に対しては対策対象松林区域の抜本的な見直しを提案し、市に対しては樹種転換を推進する区域を拡大するよう働きかけを行った。

また、駆除した被害木を木質チップとして有効利用するよう普及し、関係者にチップの運搬方法や破砕処理工場での処理までの一連の流れなどを詳細に説明するなど、運搬破砕による駆除事業の導入について指導を行った。

② 原木供給側への働きかけ

県が被害発生源を生じさせない伐採方法等を定めた「松くい虫被害対策としてのアカマツの伐採施業指針」の遵守や、「被害木等の利用駆除ガイドライン」に沿った加工利用について、市内の素材生産業者へ指導を行った。



素材生産業者等への働きかけ

③ 原木受入側への働きかけ

松くい虫被害木を適切に利用し、駆除するため、市内のチップ工場や製材工場に松くい虫被害木破砕等処理工場（以下「処理工場」という。）の認定制度を紹介し、利用駆除ガイドラインに沿った加工利用の理解醸成を図り、処理工場の認定申請を促した。

(3) 成果

① 行政の取組

被害先端地域では、民有林と国有林の監視を強化するとともに、民国での被害状況の共有を進め、令和4年度から民国が連携し、被害先端地域での重点的な駆除を開始した。

被害まん延地域では、樹種転換が促進されるよう、県が500haの高度公益機能森林を被害拡大防止森林に変更し、県、市、森林組合が連携して補助事業の導入によるアカマツ林の広葉樹林化の取組が進められている。

また、市では、補助事業を活用して運搬破碎による駆除を令和4年度から開始しており、被害木を市内の処理工場で破碎処理した木質チップが市内のチップボイラーで活用されるなど有効利用が図られた。

② 原木供給側の取組

素材生産業者が、松くい虫被害対策としてのアカマツの伐採施業指針と被害木等の利用駆除ガイドラインについての理解を深め、これらの指針等を遵守した原木供給を行われている。

③ 原木受入側の取組

令和4年度に遠野市内の製材やチップ製造の3工場が処理工場として新たに認定され、利用駆除ガイドラインに沿って加工利用を行っている。

④ 被害材等の利用に向けた関係機関との合意形成

処理工場が被害先端地域に所在しており、被害木の処理工場への移動による被害の拡大が懸念されることから、遠野地区森林病虫害被害対策連絡会議を開催し、処理工場で利用駆除することで感染源を排除し、アカマツを利用することで樹種転換が進み松林の健全化につながることを強く説明し、関係者の理解が深まった。

⑤ 地域森林の目指す姿へのアプローチ

市は、令和5年3月に樹立した、地域の森林のマスタープランである「遠野市森林整備計画」に遠野市松くい虫防除戦略に基づく防除活動を実施していくことを明示し、市民をはじめとした関係者が一体となって防除活動を行っている。



運搬破碎による駆除



処理工場における被害木等の
破碎処理



遠野地区森林病虫害被害対策
連絡会議の様子

(4) 課題

① アカマツ林の樹種転換の加速化

被害まん延地域の被害の低減に向けて、アカマツ林の樹種転換を加速

させる必要がある。

② 木質バイオマス発電業者によるアカマツ材集荷への対応

地元企業が発電量 2 MW 規模の木質バイオマス発電を開始する予定であり、今後、資源の豊富なアカマツ林の伐採の進行が想定される。木質バイオマス発電の木質燃料チップ生産過程における松くい虫被害拡大防止の仕組みを検討するため、さらなる地域の合意形成が必要である。

3 今後取り組むべき内容

(1) 具体的手法又は検討方向

- ・ 遠野市松くい虫防除戦略に基づく樹種転換の推進について、森林所有者、素材生産業者、木材加工業者に十分な周知を行い、各種補助事業を活用して樹種転換を加速させる。
- ・ 木質バイオマス用のアカマツ材の集積場における被害発生の防止に向け、素材生産業者や木質バイオマス発電事業者と意見交換をしながら、伐採施業指針等に沿ったアカマツ原木の通年利用の対応について合意形成を行う。

(2) 理由

- ・ 被害まん延地域の松林の健全化を図るため、樹種転換による被害の低減が必要なため
- ・ 木質バイオマス発電向けの原木が大量に生産された場合、通年で原木が必要となり、山土場で乾燥を目的としたストックが行われることが予想されるため

(3) 期待する成果（目標値等を定めた場合はその内容を含む）

- ・ 駆除事業と併せて行うアカマツ林の広葉樹林化の推進により、効果的な被害拡大の防止が図られるほか、アカマツ材の加工利用の促進による林業の成長産業化を通じた地域経済の活性化が期待される。
- ・ 木質バイオマス発電等の集荷に伴う松くい虫被害発生の抑制の取組などの総合防除を進めることにより、アカマツ林の健全化が図られるほか、低質材の利用促進による森林所有者の所得向上が期待される。